

研究室運営セミナー開催報告

■日時: 2009年7月某日 10:30~12:00 ■参加者: 豊橋技術科学大学教授、准教授、助教、助手 合計37名
 ■内容: 教員に対して、研究遂行に必要なコミュニケーション能力や問題抽出能力の意義を説明し、研究に対する意識改革を促した。 ■講師: 京都大学工学研究科特任講師宮野公樹&大学研究室運営WGメンバー

講義の途中に付箋紙で意見を記入するスタイル

当日は講師とTA 3名で講義と意見集約をサポート



年々大学教員は忙しくなっている。しかも、その業務は研究、教育、営業、大学運営などなど多岐にわたっている。加えて、最近の学生のモチベーションも多様化しており、大学が提供する学生相談におとずれる学生数は増加傾向にあるという。

これらの状況に対応するため、今まさに大学教員の意識改革が必要である。そこで、「大学研究室運営ワーキンググループ(通称:いきいき研究室増産プロジェクト)」では3年前から活動を開始し、全国大学教員によるアンケートや、一般企業で活用されているチームビルディング、コーチング手法を大学研究室用に改良し適用させるといった取り組みを行ってきた。

今回のセミナーで主張したことはただ一つ。大学教員のメインのモチベーションの一つである研究推進にあえてこだわらず、その研究を遂行する学生を成長することにこそ最大のエフォートをかけよう!という「研究ドリブから人材育成ドリブへの転換」である。

本ワークショップの満足度は?

